

森にひっそりと咲く、貴重な植物たち～その①～

那須平成の森では、環境省によって「生物モニタリング調査」を行っています。その調査で見つかった希少性の高いラン科植物を、3号に渡って紹介したいと思います。

○ギンラン 栃木県レッドデータブック 準絶滅危惧種

那須平成の森では数は多くはありませんが、春先に観察することができます。ギンランは「イボタケ科」というキノコの菌と共生関係にあり、栄養のやり取りをしています。

菌類から栄養をもらって生きている植物を「腐生植物」と言います。しかし、ギンランは自ら光合成をしているため、部分的と言えます。



○ノビネチドリ 栃木県レッドデータブック 絶滅危惧II類

山地の湿った場所を好む植物。ピンク色の花を穂状に付けるため、とても目立ちます。ラン科植物は森の奥地に生えることが多いですが、本種は道端によく出ます。

ノビネチドリを含むラン科植物の種子は、埃の様に細かいものです。その全てが未分化(このことを「しいな」と言います)で、共生する菌類がいなければ発芽できません。



ラン科植物の種子▶

ラン科植物の仲間は、共生する菌類がいなければ生きていくことができません。また、ランの種類によって共生する菌類も違うので、豊かな自然環境が必要になります。ランの仲間は森でしか生きていくことができない、貴重な植物なのです。

インターフリーターが独自の視点で語る…

インターフリーターの部屋 Part.9 ～たんたん編～

私の「宝物さがし」を紹介!

森はまるで宝箱!!

森の中を歩くと、私は必ず「宝物探し」をしながら歩きます。人それぞれの宝物があるかと思いますが、私にとっての宝物は「心に染み込んでいく風景」です。

平成の森の中では多くの生き物や植物たちが暮らしており、その環境も多様。様々なタイミングで様々な場面に巡り合うのですが、ふとした瞬間に、心に「じわー」と何かが広がっていく感覚を感じる場面に会うことがあります。

例えば太陽の光によって浮き上がる、絶妙なバランスをとっている雪の柱と影。人の顔のように見える枯れ木から舌のように生えるキノコ。

「宝物」を見つけた時は心が幸福感や充実感に包まれていくのがリアルタイムに感じられて、いつも「宝物探し」をしてしまいます。(丹野)

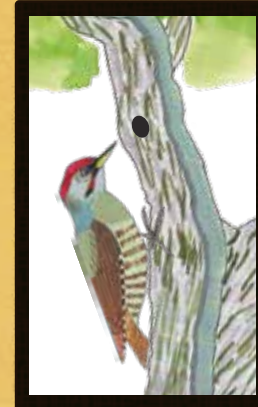


「那須平成の森 花札」

7月、8月、9月の花札を紹介します。花(樹)は、それぞれミズナラ、ヨツバヒヨドリ、リンドウを選びました。那須の夏から秋にかけて、存在感を表す花たちです。

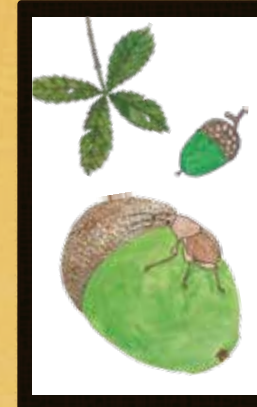
7月 ミズナラ

20点



ミズナラにはよくアオゲラが巣を作ります。

10点



まだ青いどんぐりにはコナランギソウムシが。

5点



この短冊は「あかよろし」と読みます。「とても素晴らしい」という意味です。

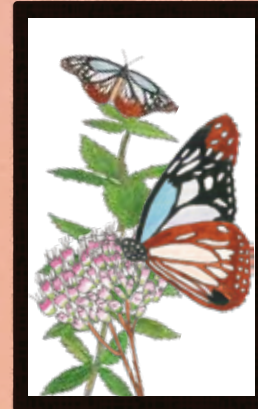
カス札



コナラとの違いは、葉柄がほとんどないことです。

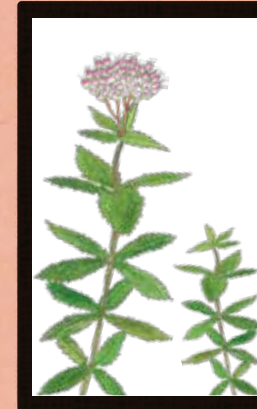
8月 ヨツバヒヨドリ

10点



アサギマダラは、ヨツバヒヨドリの花が大好き。

カス札



ヨツバヒヨドリの葉のつき方は「輪生」といいます。

カス札



この花札の権利は「那須平成の森」。

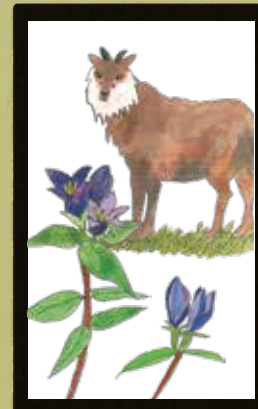
カス札



この花札をデザインした人の名前を取って「丸子堂」。

9月 リンドウ

10点



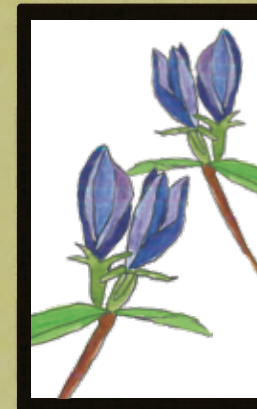
秋になるとカモシカがあらわれます。

5点



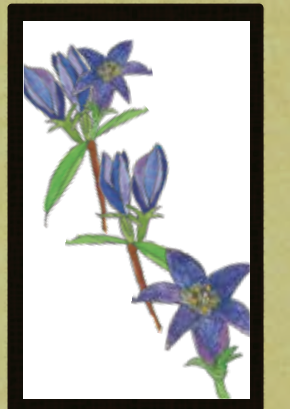
リンドウの雄しべは5個。

カス札



リンドウの花は茎のてっぺんにつきます。

カス札



リンドウは昔から苦い胃の薬に使われていました。